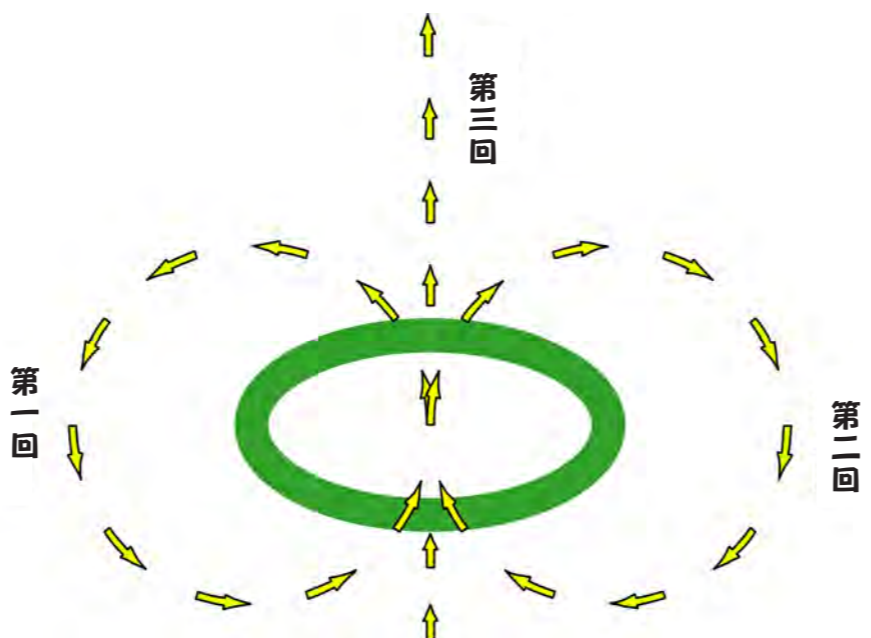


●茅輪神事（ちのわしんじ）について
茅輪神事は、茅で作った茅輪をくぐり越えて罪穢れを除き、心身の清浄ならんことを祈請するものです。

●茅輪神事の由来について

神代の昔、素戔鳴尊（すさのおのみこと）が、南海の方へお出でになる途中、或る所でお泊りになろうとして、土民の蘇民将来（そみんしょうらい）、巨旦将来（こたんしょうらい）と云う兄弟に宿を求められた。その時、弟の巨旦将来は、裕福な身であったにも拘らず、宿を拒んだのに対し、兄の蘇民将来は、貧しい身であったが、尊をお泊めし、栗柄を以て座を設け、栗飯を饗して御待遇申し上げた。その後、年を経て尊は再び蘇民将来の家を訪れ、「若し天下に悪疫が流行した際には、ちがやを以て輪を作り、これを腰に著けてをれば免れるであろう。」と教へ給うた。この故事に基づき、蘇民将来と書いて、これを門口に張れば、災厄を免れるといふ信仰が生じ、また祓いの神事に茅輪を作ってこれをくぐり超えるようになったのである。



●茅輪のくぐり方の一例
先ず、茅輪の正面に至り軽く礼をし、左足から輪をくぐり左へ廻る。
次に、再び茅輪の正面に至り軽く礼をし、右足から輪をくぐり右へ廻る。
次に、再び茅輪の正面に至り軽く礼をし、左足から輪をくぐる。
次に、階段を上がり、ご神前に進み二礼二拍手一礼の作法で参拝する。
但し、階段を上がれない方は、左に進んで、神楽殿の方よりご参拝ください。